

第3章 学生の受け入れ

1 平成15年度以降の入試体制の現状

本学のアドミッションポリシーである「看護学に深い関心を持ち、本学卒業後その専門分野における実践及び教育の研究に携わって行く意欲を有する者」を広く志願者に理解してもらうために、毎年作成する「キャンパスガイド」や「大学ホームページ」に明記するとともに、内容の充実に向け工夫を重ねてきた。

これらを資料を本学の広報や受験生の募集に活用しているが、本学の立地条件や今後の少子化傾向をふまえると、学生の確保上の問題が起こることが予想される。本学の教育理念とアドミッションポリシーの統合性を考えていく中で、受験生確保の取り組みを一層進めていく必要がある。

1) 入学情報の公開

平成14年度は開学年のため、センター試験の導入はなく本学独自の一般選抜を実施した。受験者も定数の5～6倍であった。

(1) オープンキャンパス

受験生に本学の特徴、学習内容、大学生活の一端を知らせることにより進路決定の助けとするため、毎年2回のオープンキャンパスを実施している(表3-1)。

午後から4時間をかけ、教職員や10数名の在学生の協力によって、大学の概要及び入学試験の概要、施設見学、看護学体験学習、各種相談のプログラムを実施している。特に毎年教員が工夫して構成する体験学習に対する参加者の興味関心は大きく、本学への志願を決定づける動機になるようである。

平成19年度の1回目の参加者が極端に少なかったのは、中越沖地震の影響も考えられる。

表3-1 オープンキャンパスの参加状況

年 度	H15	H16	H17	H18	H19
第1回	156	102	121	104	50
第2回	106	82	106	106	109
計	262	184	227	210	159

(2) 県内大学入試懇談会

新潟県高等学校長協会大学入試専門委員会主催の県内大学入試懇談会に出席し、大学の概要や入試の状況説明及び各高校との質疑応答等を行った。

(3) 進路説明・相談会

県内各地で開催される進路説明会に参加し、大学の概要や入試状況の説明及び生徒からの質問に対応している。専門学校と同時主催の説明会会場では、参加者の相談がほとんどないため、今後専門学校と合同の参加については検討を要する。

(4) 大学説明会と模擬授業

各高校の申請により本学入試委員を中心に教職員が出向き、大学の説明や模擬授業を行っている。専門学校と大学の進路選択に迷っている生徒に大学進学の特長を説明することが多い。これが高校生の受験活動に何らかの貢献をしているようである。

(5) 公開授業

平成 16 年度から「高校生のための授業見学」として受講を希望する高校生に対し大学の授業を公開している。毎年数名の申し込みがあり、本学の学生と一緒に授業を受けている。

2 入学者選抜方法

1) 現状

本学の入学者選抜は、推薦入試を中心とした特別選抜と、一般選抜の二つの方法によっている。

選抜方法は、筆記試験、面接、調査書による総合評価である。特に特別選抜の面接では、グループ面接法を取り入れている。対話型コミュニケーション能力や論理的思考能力の水準を重視した。

大学入試センター試験の他、本学独自の入試問題については、入試委員会で検討し、学内の複数の教員に問題作成を依頼しているが、さらに入試委員会で再検討・修正を行っている。試験問題及び成績は、厳重管理を旨とし、教職員間で相互に安全管理のできるシステムを取っている。入学者合格発表後の出題問題は一般公開を原則としている。

2) 特別選抜(推薦)入学試験

県立という特性から本学は、新潟県下の高校生の受験を促進するため看護学に深い関心を持ち意欲的に学びたいという学生の中で、特に学業の評定が高いものについて、一高校あたり 3 名以内の推薦枠を設け、全入学者 90 名中 30 名を合格者とする特別選抜を行っている。また、同時期に若干名の社会人枠を設けている。なお、30 名枠のうち 2 名は県下の衛生看護科をもつ高校の推薦枠を設けていたが、この高校教育プログラムが停止・終了したため、平成 17 年以降は募集を行っていない。

3) 一般選抜入学試験

一般入学選抜試験は、センター試験の他に本学の独自試験を加えた方法により実施している。本学独自の入学試験の合格者枠は前期試験(50名)、後期試験(10名)である。

センター試験の教科・科目は、「国語」と、「地理歴史」、「公民」から 1 科目、数学の「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」から 1 科目、「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「工業数理基礎」「簿記会計」「情報関係基礎」から 1 科目、理科の「理科総合B」「生物Ⅰ」「理科総合A」「化学Ⅰ」「物理Ⅰ」「地学

I」から1科目、それに英語の5教科6科目としている。

受験者は、新潟県はもとより全国各地から応募している。

4) 大学入試センター試験

平成15年より導入し4年経過した。本学は県下の試験会場の一つとして指定されており、実施にあたっては全学的に取り組んでいる。特に、平成18年度より英語のリスニングテストが導入されて以降は、全教員が事前に講習を受けて対応している。

5) 編入学試験

開学時より看護准学士取得者および看護専修学校卒業生（見込み者を含む）に対して門戸を開き、大学教育の機会を提供する計画をもっていたが、本学学生の3年次進級年に合わせ、平成17年より10名枠で3年次編入学選抜試験を導入した。編入学試験では、看護学の基礎的な学力および本大学の学習を3年次生と共に履修していきける語学力、論理的な思考力、問題解決能力を評価の視点におき、「英語」「看護学」「面接」の選抜試験を実施している。

3 志願者・受験者及び入学者の状況

表3-2 志願者及び入学者数

年度		募集定員	志願者数	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数	
特別選抜	一般推薦	15	28	60	2.14	28	28	
		16	28	48	1.71	29	29	
		17	30	43	1.43	31	31	
		18	30	52	1.73	33	33	
		19	30	58	1.93	30	30	
	衛看	15	2	4	2.00	2	2	
		16	2	3	1.50	2	2	
	社会人	15	若干名	8	8	—	3	2
		16	若干名	6	6	—	4	3
		17	若干名	11	9	—	1	1
		18	若干名	5	5	—	0	0
		19	若干名	10	10	—	6	5
	一般選抜	前期	15	50	111	2.16	54	51
			16	50	126	2.44	50	48
			17	50	141	2.62	50	43
18			50	148	2.64	54	48	
19			50	113	2.06	50	45	
後期		15	10	108	4.40	10	10	
		16	10	88	3.20	10	10	
		17	10	224	9.00	14	12	
		18	10	162	5.80	12	11	
		19	10	135	4.30	10	7	
編入	17	10	26	2.50	10	8		
	18	10	13	1.20	9	8		
	19	10	23	2.30	10	3		

1) 現状

表3-2のように特別選抜枠30名の受験倍率は、初年度を除き2倍弱範囲で推移している。社会人については、受験者に対する合格者は一般推薦合格者より少ない。

前期一般選抜は、その推移からみて、受験倍率、合格者数共に変化は少ない。しかし、これまでほとんどみられなかったことだが、入学を辞退する数名の合格者があり、この傾向は後期一般選抜及び編入学において多くみられる。

2) 新潟県内の入学者

例年、新潟県出身の入学者が60～70%を占める。この背景には、本県出身者に対する入学料の減免制度がある。

表3-3 県内県外別入学者数状況

	H15	H16	H17	H18	H19
新潟県内	69	74	57	69	70
県外	24	18	38	31	20
計	93	92	95	100	90

3) 5年間の新潟県内外の入学者

5年間の県外からの入学者の多くは、隣接県出身である。また、70%以上が県内からの入学者である。

表3-4 学生の主な出身都道府県状況（平成19年4月現在）

新潟県	266	北海道	2	青森県	1	宮城県	2	秋田県	3	山形県	11
福島県	12	茨城県	2	栃木県	6	群馬県	6	埼玉県	1	千葉県	2
富山県	13	石川県	11	福井県	2	長野県	17	岐阜県	3	静岡県	2
愛知県	1	滋賀県	1	大阪府	1	兵庫県	1	愛媛県	1	計	367

4 課題・問題点及び改善方針

1) オープンキャンパスの拡充

本学のような特定分野の専門職業人の育成を目的に設置した単科大学においては、アドミッションポリシーに関してのメッセージを一層強調していく必要がある。また、入学情報の公開における種々プログラムの内、志願者の入学動機づけに最も効果的なオープンキャンパスプログラム

についての量的質的検討について一層進める必要がある。

2) 志願者

在学生の出身都道府県をみると、県内および隣接県出身の学生がほとんどを占めている。また、新潟市及び長岡市を中心とする下越、中越地方に3校の看護系大学が開設された。本学の所在地上越は、新潟県全人口の10.7%にすぎない。今後、増々県下受験生の絶対数が減少していく中、志願者の確保に関して新しいアイデアを考えていく必要がある。そのためには志願者のニーズを把握する方法について検討しなければならない。

3) 選抜方法の改善

社会人に対する選抜方法が、一般学生と同様の方法でよいのか、抜本的な検討が必要である。また、看護短期大学の予想を越えた減少と看護系大学の激増により、看護短期大学卒業者の編入学志願者は激減している。これにかわって高等専門学校出身者が増えた。志願理由の多くは、保健師受験資格を得ることに変化してきており、看護系大学における編入学教育課程の進め方についても再検討する必要がある。



オープンキャンパスでの相談窓口ブース



大学入試センター試験